

1930年代、岩手滝沢の地に、
世界と競う東北振興の拠点があった…。

キツネ、タヌキ、イタチ、ウサギなどを養殖して毛皮を取る。
かつて日本中が、軍需および外貨獲得の「毛皮獣養殖」に沸いた。
東北では更生・振興策の中核として、滝沢に国立の専門機関が置かれたが、
その記録や記憶は、いま忘却の彼方に消え去ろうとしている——。

10/4

講演会 於 岩手県立博物館 講堂

10:30~12:00

北條勝貴（上智大学）

「毛皮獣養殖のグローバル・ヒストリー」
——〈生態系総動員体制〉と滝沢村——

平井勇介（岩手県立大学）・今野公顕（同大学院博士後期課程）

「旧農林省毛皮獣養殖所周辺のくらしといま」
——解体されたもの／遺されたもの——

10/19

現地見学会 於 滝沢森林公園ネイチャーセンター

13:00~15:00

平井勇介・今野公顕

忘

forgotten

れられた

ケモノ

fur animals

たち

旧農林省毛皮獣
養殖所と
滝沢村の近代

【お問い合わせ】

岩手県立博物館

- 住所：〒020-0102 岩手県盛岡市
上田字松屋敷 34
- e-mail：daihyo@iwapmus.jp
- 担当：歴史部門 工藤健

☎ 019-661-2831

※応募方法は裏面をご参照ください。



岩手県立博物館
ホームページ

科研費
KAKENHI





1937（昭和12）年1月12日、勅令第二号にて、

「朕、臨時毛皮獣養殖所設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム」。

現在の滝沢森林公園・野鳥観察の森には、1937年から戦後数年の間まで、旧農林省の直轄機関である「毛皮獣養殖所」が置かれていた。昭和初期の日本では、キツネやタヌキ、イタチ、ウサギなどをから毛皮を取り、軍需や外貨獲得に役立てる毛皮獣養殖が盛んだった。上記の養殖所は東北におけるその拠点であり、これを中心に岩手県各地で養狐・養狸熱が高揚したが、1940年頃を境に同産業は一気に衰え、いまではそのような事象があったことすら忘れられている。それはなぜなのか。講演会と特別展示、現地説明会でひもといてゆく。



▶ **講演会** 10/4（土）10:30～12:00 岩手県立博物館 講堂
北條勝貴（上智大学）

「毛皮獣養殖のグローバル・ヒストリー
——〈生態系総動員体制〉と滝沢村——」

平井勇介（岩手県立大学）

今野公顕（同大学院博士後期課程）

「旧農林省毛皮獣養殖所周辺の暮らしといま
——解体されたもの／遺されたもの——」

▶ **現地見学会** 10/19（日）13:00～15:00

滝沢森林公園ネイチャーセンター

案内：平井勇介・今野公顕



【応募方法】

● **講演会**……当日博物館にて受付、聴講無料

● **現地見学会**……以下の e-mail アドレスへ必要事項を記入し送信（先着 20 名）

・宛先：rekishi07@iwapmus.jp

・件名：歴史特別講座申込

・必要事項：氏名、年齢、電話番号（保険加入のため使用します）

・申込期間：令和7年9月16日（火）～10月12日（日）

・参加費用：100円（保険加入料）

【お問い合わせ】

岩手県立博物館

●住所：〒020-0102 岩手県盛岡市
上田字松屋敷 34

●e-mail：daihyo@iwapmus.jp

●担当：歴史部門 工藤健

☎ 019-661-2831

